

# 2008年3月期(第37期) 第1四半期決算説明資料

2007年8月1日

エヌアイシ・オートテック株式会社

代表取締役社長 西川浩司

<http://www.nic-inc.co.jp/>

**JASDAQ**

証券コード:5742

# 目次



I.	2008年3月期	第1四半期決算の概要	P 3 ~ P 17
II.	2008年3月期	中間業績予想	P 18 ~ P 21
III.	2008年3月期	通期業績予想	P 22 ~ P 29
IV.	今後の施策		P 30 ~ P 35
V.	会社概況		P 36 ~ P 46

# I. 2008年3月期 第1四半期決算の概要

# 第1四半期業績(要約財務諸表)

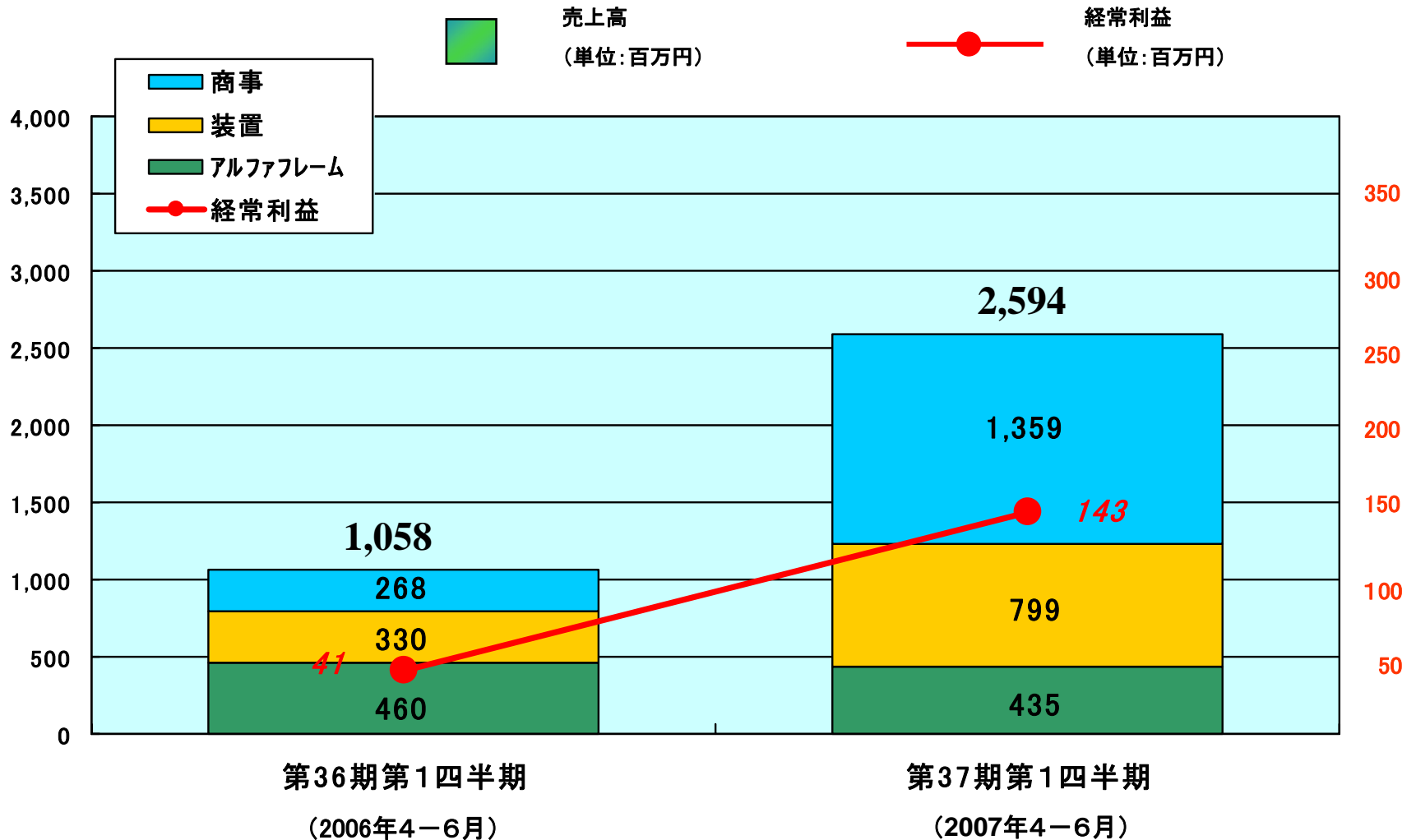


(単位:百万円)

	第36期 1Q (2006年4-6月)	第37期 1Q (2007年4-6月)	第37期中 (2007年9月期)	第37期 (2008年3月期)
売上高	1,058	2,594	4,007	7,100
売上総利益	295	370	753	1,437
営業利益	48	140	227	405
経常利益	41	143	229	411
経常利益率	3.9%	5.5%	5.7%	5.8%
純利益(当期・四半期)	15	84	130	234
純資産額	2,506	2,730	—	—
総資産	4,230	5,663	—	—
株主資本比率	59.2%	48.2%	—	—
ROE	0.7%	3.1%	—	—
ROA	1.2%	2.7%	—	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

# 四半期売上高及び経常利益の推移



# 第1四半期決算概要(P/L) 前年対比

(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比	今期計画(参考) (2008年3月期予想)		達成率
売上高	1,058	100%	2,594	100%	245%	7,100	100%	37%
売上総利益	295	28%	370	14%	125%	1,437	20%	26%
営業利益	48	5%	140	5%	287%	405	6%	35%
経常利益	41	4%	143	6%	349%	411	6%	35%
四半期(当期)純利益	15	2%	84	3%	527%	234	3%	36%

- 売上高 …………… フラットパネルディスプレイ(以下、FPD)及び自動車関連業界からの継続的受注により増収
- 売上総利益 …………… 原材料価格の高騰等による売上原価の増加により利益率減少するも増益
- 営業利益 …………… 売上高伸長、前期主幹事証券支払手数料減少及び経費削減がこれを吸収して増益
- 経常利益 …………… 前期上場費用9百万円減少及び仕入値引等により増益
- 四半期(当期)純利益 …… 増益等に伴う法人税等の増加によるも増益

# 品目別第1四半期売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	前年比	売上高	前年比	
アルファフレーム	230	50%	202	47%	88%
補助部品	192	42%	189	44%	99%
その他	38	8%	43	10%	112%

- アルファフレーム …… アルファフレームは、当社の特徴である技術力を活かしたアルミ構造材の普及並びに提案営業を強化するも、前期末の駆け込み需要が影響し、前年を下回る
- 補助部品 …… フレームを結合するブラケット等の補助部品の売上は、前期末の駆け込み需要が影響するもほぼ前年並み
- その他 …… その他は、「顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加」及び「納期短縮化に伴う加工及び組立の増加」傾向に伴う売上が中心で、前年比で堅調に推移

# 販売先別第1四半期売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	前年比	売上高	前年比	
代理店販売	421	92%	390	90%	93%
直接販売	39	8%	44	10%	115%

- 代理店販売 …… 代理店営業マンの商品知識とモチベーション向上のため、定期的な勉強会の開催や分かりやすいカタログの作成を通じて販売を強化するも、前期末の駆け込み需要による影響により、前年下回る
- 直接販売 …… 個別強度解析等の支援を必要とする大口ユーザーに対して直接サポートが可能な直接販売体制の整備を行っており、前年比で好調に推移



# 品目別第1四半期売上高(装置部門)

(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	前年比	売上高	前年比	
洗浄装置	34	11%	48	6%	140%
検査装置	46	14%	6	1%	15%
搬送・梱包装置	30	9%	410	51%	1348%
クリーンブース	93	28%	212	27%	227%
アルミ構造物	30	9%	8	1%	27%
その他	93	28%	112	14%	120%

- 洗浄装置 …… 自動車関連業界向けの汎用性の高い中型機を中心に堅調に推移
- 検査装置 …… 自動車関連業界向け受注の期ズレにより前年下回るも、今期受注見込
- 搬送・梱包装置 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- クリーンブース …… FPD製造設備装置向けカスタムクリーンブースが前期に引き続き好調に推移
- アルミ構造物 …… カスタム仕様マシンカバー等の減少により前年下回る
- その他 …… クリーン関連部品(FFU、パネル等)及び顧客専用の形材製品も堅調

# 販売先別第1四半期売上高(装置部門)

(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	前年比	売上高	前年比	
自動車部品	114	35%	56	7%	49%
家電関係	2	1%	455	57%	17,709%
弱電関係	19	6%	3	0%	20%
機械関係	162	49%	278	35%	172%
食品関係	0	0%	0	0%	0%
薬品関係	3	1%	5	1%	131%
その他	26	8%	0	0%	0%

- 自動車部品 … 自動車関連業界向け受注の期ズレにより前年下回るも、今期受注見込
- 家電関係 …… 光ディスク製造装置等の継続的な大口受注により大幅伸長
- 弱電関係 …… カスタム仕様マシンカバー等の減少により前年下回る
- 機械関係 …… 液晶製造装置設備投資及び工作機械関係の需要が順調に推移

# 品目別第1四半期売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	増減率	売上高	増減率	
工業用砥石・油脂類	68	26%	70	5%	103%
機械設備	38	14%	1,138	84%	2,973%
工具・ツール	134	50%	123	9%	92%
その他	26	10%	27	2%	103%

- 工業用砥石・油脂類 …… 顧客の生産量拡大に伴い、機械設備に付随する消耗品等が堅調に推移
- 機械設備 …………… 大型機械設備案件や部品組立機等の機械設備投資が好調に推移
- 工具・ツール …………… 切削加工等の機械設備受注に伴うドリル等の切削工具減少により前年下回る
- その他 …………… 機械設備修理に伴う売上等が堅調に推移

# 販売先別第1四半期売上高(商事部門)



(単位:百万円)

	第36期第1四半期 (2006年6月期)		第37期第1四半期 (2007年6月期)		前年比
	売上高	比率	売上高	比率	
地元大手企業	112	42%	1,204	89%	1,069%
その他	155	58%	155	11%	100%

- 地元大手企業 … 大型機械設備案件、部品組立機及び消耗品類等が好調に推移
- その他 …………… 提案営業による既存顧客への囲い込み等により、工具・ツール・消耗品等が前年並み

# 第1四半期決算概要(P/L)



(単位:百万円)

	当第1四半期実績 (2007年6月期)		当期計画 (2008年3月期予想)		未達額	達成率	要因
売上高	2,594	100%	7,100	100%	4,505	37%	・依然好調な次世代FPDや自動車部品製造関連企業からの継続的な受注により増収
売上総利益	370	14%	1,437	20%	1,066	26%	・原材料価格高騰を歩留り率向上や部品の海外調達等により粗利益率の低下を抑制
営業利益	140	5%	405	6%	264	35%	・売上高伸長、前期主幹事証券支払手数料及び経費削減がこれを吸収し増益
経常利益	143	6%	411	6%	267	35%	・前期上場費用9百万円減少及び仕入値引等により増益
四半期(当期)純利益	84	3%	234	3%	149	36%	・増益等に伴う法人税等の増加によるも増益

	当第1四半期実績 (2007年6月期)		当期計画 (2008年3月期予想)		未達額	達成率	要因
研究開発費	16		85		69	20%	・装置製品(洗浄機・搬送装置)開発を中心に投資
設備投資額	99		176		76	57%	・技術開発センターの取得による増加
減価償却費	15		75		59	21%	・既存設備償却14百万円、当期取得分償却1百万円

# 第1四半期決算概要(B/S)



(単位:百万円)

	当第1四半期末 (2007年6月末)	前第1四半期末 (2007年6月末)	増 減	増 減 内 容
総 資 産	5,663	4,230	1,433	・機械設備等に伴う受取手形・売掛金の増加 ・技術開発センター取得に伴う建物の増加113百万円
( 棚 卸 資 産 )	704	755	▲51	・機械設備及び装置部門(FA装置・クリーンブース)の仕掛品等の減少
負 債	2,933	1,723	1,209	・機械設備仕入等に伴う支払手形・買掛金の増加914百万円 ・技術開発センター取得に伴う設備支払手形の増加51百万円
( 有 利 子 負 債 )	60	491	▲431	・長期借入金、社債等の減少 ・当第1四半期の有利子負債は、社債60百万円のみ
純 資 産	2,730	2,506	224	・自己株式取得に伴う増加34百万円 ・利益剰余金の増加

# 第1四半期決算概要(キャッシュ・フロー)



(単位:百万円)

	当第1四半期末 (2007年6月末)	前第1四半期末 (2007年6月末)	増 減 内 容
営業活動	135	▲18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税引前四半期純利益の増加による資金増加+143百万円</li> <li>・仕入債務・設備支払手形の増加による資金増加+965百万円</li> <li>・たな卸資産の減少による資金増加+90百万円</li> <li>・売上債権の増加による資金減少▲985百万円</li> <li>・法人税等の支払による資金減少▲114百万円</li> </ul>
投資活動	▲107	▲13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術開発センター等の有形固定資産取得による資金減少▲99百万円</li> </ul>
財務活動	▲73	189	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己株式取得による資金減少▲34百万円</li> <li>・配当金の支払による資金減少▲38百万円</li> </ul>
現預金残高	250	325	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上記の各要因による当第1四半期末の現預金残高+250百万円</li> </ul>

# 第1四半期決算概要(受注実績)

(単位:百万円)

	当 第 1 四 半 期 ( 2 0 0 7 年 6 月 末 )		前 第 1 四 半 期 ( 2 0 0 6 年 6 月 末 )		前 期 比	
	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高	受 注 高	受 注 残 高
アルファフレーム部門	396	36	430	41	92%	89%
装 置 部 門	206	538	768	786	27%	68%
商 事 部 門	288	108	598	385	48%	28%
合 計	891	683	1,798	1,213	50%	56%

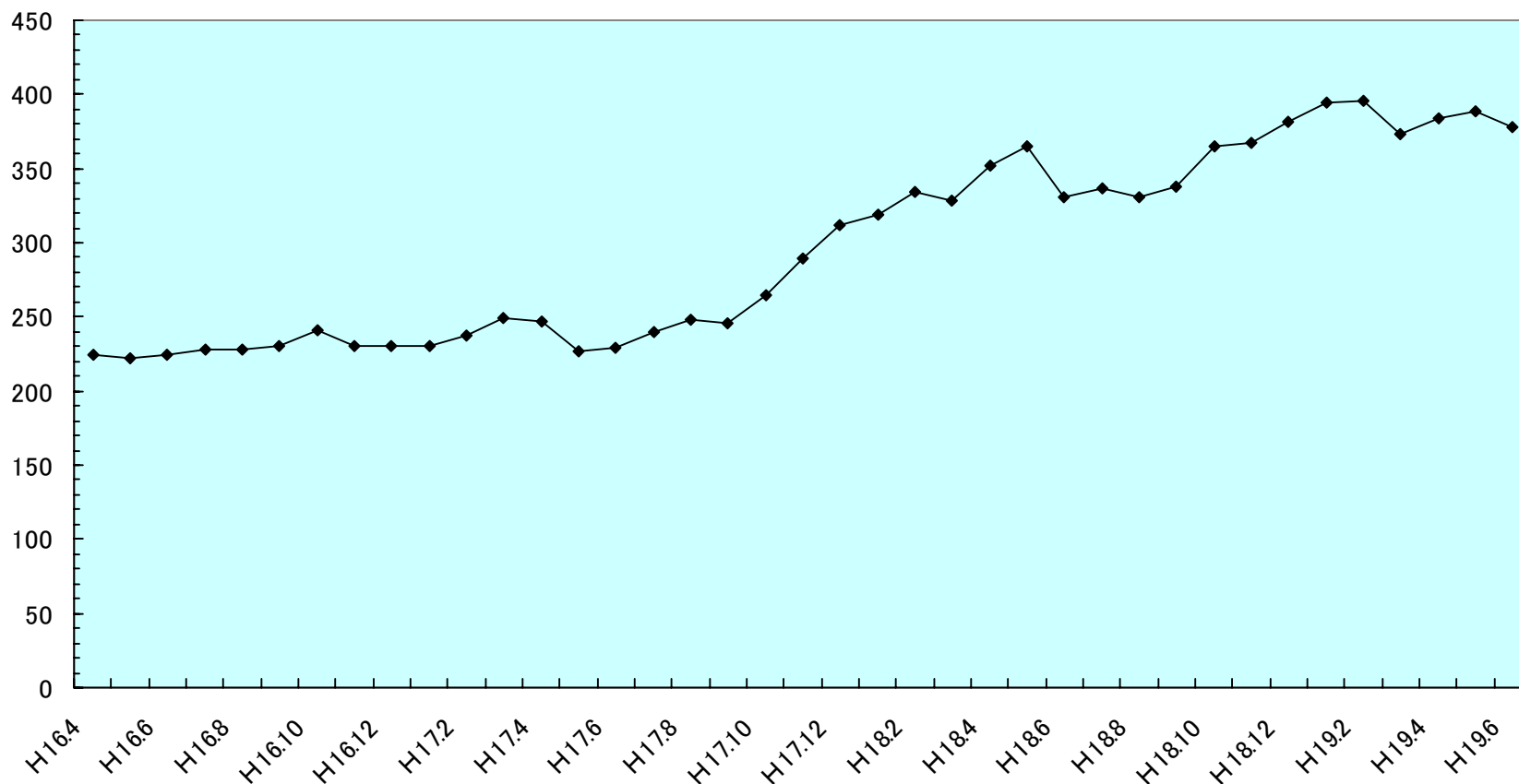
- アルファフレーム部門 …… 前期好調であった液晶関係業界の設備需要が一服
- 装置部門 ……………… 前期好調であったカスタムクリーンブース等の設備需要が一服
- 商事部門 ……………… 前期好調であった機械設備等の設備需要が一服



# 第1四半期決算概要(アルミ地金価格推移)



(単位:円/Kg)



※ 日経市況データより

---

## Ⅱ. 2008年3月期 中間業績予想

---

---

# 中間期業績推移(要約財務諸表)

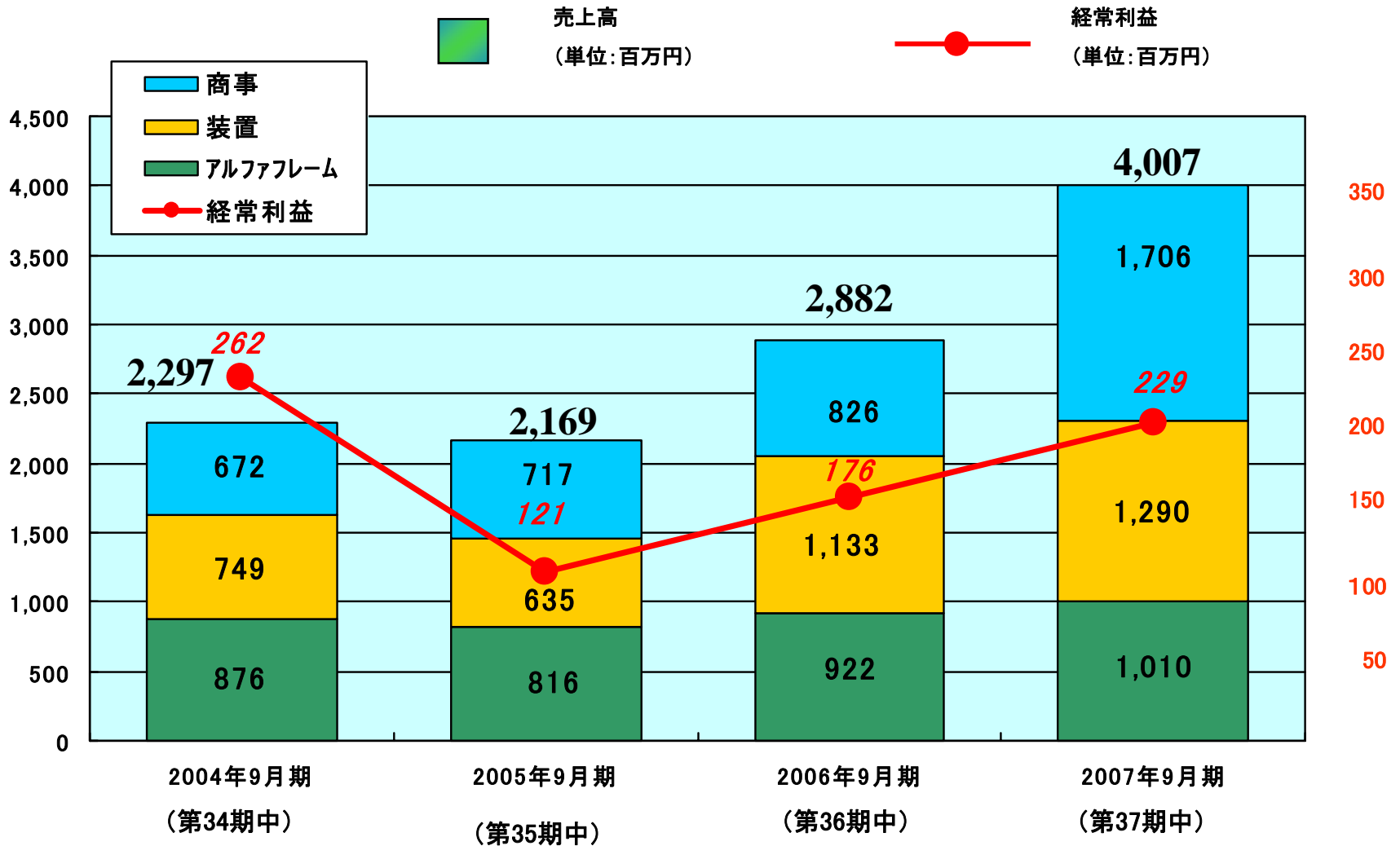


(単位:百万円) <ご参考>

	第35期中 2005年9月期	第36期中 2006年9月期	第37期中 2007年9月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期	第37期 2008年3月期
売上高	2,169	2,882	4,007	4,730	7,001	7,100
売上総利益	587	656	753	1,276	1,364	1,437
営業利益	120	184	227	358	426	405
経常利益	121	176	229	370	424	411
経常利益率	5.6%	6.1%	5.7%	7.8%	6.0%	5.8%
純利益(当期・中間)	78	99	130	221	239	234
純資産額	2,096	2,577	—	2,285	2,721	—
総資産	3,843	4,909	—	3,977	4,706	—
株主資本比率	54.5%	52.5%	—	57.4%	57.8%	—
ROE	3.7%	4.1%	—	10.2%	9.6%	—
ROA	3.1%	4.2%	—	8.7%	9.8%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

# 中間売上高及び経常利益の推移



# 中間業績予想(P/L) 達成比率

(単位:百万円)

	第37期第1四半期 (2007年6月期)		第37期中間業績予想 (2007年9月期予想)		達成率
	金額	比率	金額	比率	
売上高	2,594	100%	4,007	100%	65%
売上総利益	370	14%	753	19%	49%
営業利益	140	5%	227	6%	62%
経常利益	143	6%	229	6%	63%
四半期(当期)純利益	84	3%	130	3%	64%

- 売上高 …………… フラットパネルディスプレイ(以下、FPD)及び自動車関連業界からの継続的受注により増収
- 売上総利益 …………… 原材料価格の高騰等による売上原価の増加により利益率減少するも増益
- 営業利益 …………… 売上高伸長、前期主幹事証券支払手数料減少及び経費削減がこれを吸収して増益
- 経常利益 …………… 前期上場費用9百万円減少及び仕入値引等により増益
- 四半期(当期)純利益 …… 増益等に伴う法人税等の増加によるも増益

## Ⅲ. 2008年3月期 通期業績予想

---

---

# 業績推移(要約財務諸表)

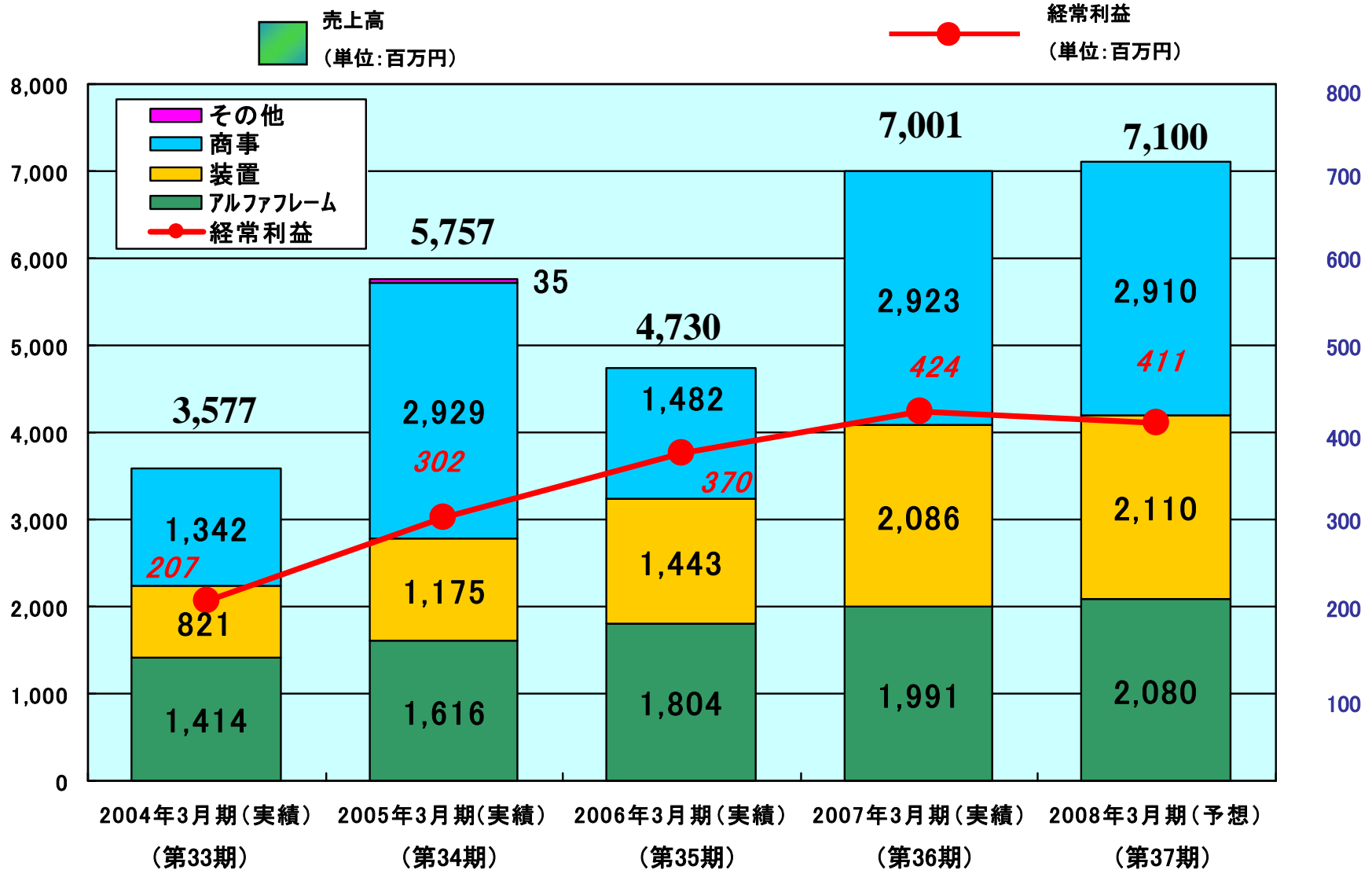


(単位:百万円) <ご参考>

	第32期 2003年3月期	第33期 2004年3月期	第34期 2005年3月期	第35期 2006年3月期	第36期 2007年3月期	第37期 2008年3月期
売上高	3,239	3,577	5,757	4,730	7,001	7,100
売上総利益	—	1,029	1,250	1,276	1,364	1,437
営業利益	—	226	302	358	426	405
経常利益	25	207	302	370	424	411
経常利益率	0.8%	5.8%	5.3%	7.8%	6.0%	5.8%
当期純利益	48	129	157	221	239	234
株主資本	1,766	1,912	2,048	2,285	2,721	—
総資産	3,366	3,694	4,294	3,977	4,706	—
株主資本比率	52.5%	51.7%	47.7%	57.4%	57.8%	—
ROE	2.8%	7.0%	7.9%	10.2%	9.6%	—
ROA	—	6.4	7.6%	8.7%	9.8%	—

注) ROE=当期純利益/株主資本、ROA=営業利益/総資産は、期中平均により算出しております

# 利益計画(売上高及び経常利益の推移)





# 第37期 部門別売上高(アルファフレーム部門)



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
アルファフレーム	936	45%	920	46%	15	102%	・引き続き薄型テレビ主軸のデジタル家電が堅調 ・当社技術力を生かした提案営業の強化
補助部品	926	45%	862	43%	63	107%	・上記アルファフレームに同じ
その他	218	10%	207	10%	10	105%	・顧客ニーズの多様化に伴う追加加工の増加 ・納期短縮化に伴う加工及び組立の増加

販売先別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
代理店販売	1,809	87%	1,746	88%	63	104%	・当社技術力を生かした提案営業の強化 ・各種技術面におけるサポートの強化
直接販売	270	13%	245	12%	24	110%	・強度解析等による大口ユーザーへの直接ポート (設計支援等)を強化 ・当社ホームページ問合せ及び展示会来訪者に対する組織的フォローの強化

# 第37期 品目別売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2007年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
洗 浄 装 置	138	7%	95	5%	43	145%	・中型洗浄機の需要は堅調
検 査 装 置	207	10%	98	5%	109	211%	・中型検査期の需要は堅調 ・部品洗浄計測装置(新開発)が堅調
搬送・梱包装置	458	22%	638	31%	▲180	72%	・光ディスク製造装置等の受注は引き続き堅調だが、部品納入数の減少を予想し減収を見込
クリーンブース	706	33%	574	28%	132	123%	・カスタムクリーンブース市場は引き続き拡大傾向 ・FPD製造設備用の受注は堅調
アルミ構造物	134	6%	191	9%	▲57	70%	・既存客からの継続受注は堅調 ・ユーザー設計の増加に伴い減収を予想
そ の 他	465	22%	488	23%	23	95%	・クリーン関連部品(FFU、パネル等)及びアルファフレーム等の専用型材等の減少を予想し減収を見込

# 第37期 販売先別売上高(装置部門)



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2007年3月期実績)		増 減	前 年 比	要 因
自動車部品	315	15%	272	13%	43	116%	・中型洗浄機は堅調 ・新規顧客への生産体制&販売の強化
家電関係	459	22%	703	34%	▲244	65%	・光ディスク製造装置等の受注は引き続き堅調だが、部品納入数の減少を予想し減収を見込
弱電関係	7	0%	27	1%	▲20	26%	・製造装置用カスタムクリーンブース等の減少を予想し減収を見込
機械関係	1,138	54%	1,001	48%	137	114%	・液晶製造装置設備投資が堅調で前期並み
食品関係	1	0%	1	0%	0	101%	・既存設備の移設・改造・修理等の受注が中心で前年並み
薬品関係	4	0%	8	0%	▲4	49%	・搬送装置、既存設備の移設・改造・修理等の減少傾向を予想し減収を見込
その他	184	9%	71	3%	113	257%	・設備投資関連市場は堅調 ・クリーン設備関連市場は堅調 ・標準品の組立加工等も堅調

# 第37期 部門別売上高(商事部門)



(単位:百万円)

品目別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
工業用砥石・ 油脂類	260	9%	275	9%	▲14	95%	・前期同様に機械設備投資が好調に推移 ・機械設備の変更に伴う大型砥石の需要が減少
機械設備	1,910	66%	1,905	65%	4	100%	・地元大手企業の設備案件により堅調に推移 ・部品組立機等の堅調に推移
工具・ツール	607	21%	622	21%	▲15	98%	・設備投資増に伴い付随する工具・ツールも堅調 ・既存客へのフォロー営業強化により堅調 ・消耗品小物の減収を予想するも前年並み
その他	131	5%	120	4%	11	110%	・前期同様に機械設備修理等が堅調に推移

販売先別	今期計画 (2008年3月期予想)		前期(参考) (2007年3月期実績)		増減	前年比	要因
	金額	比率	金額	比率			
地元大手企業	2,000	69%	2,025	69%	▲25	99%	・前年同様に大型設備案件等が堅調 ・設備投資増に伴い消耗品等も前年並み
その他	910	31%	898	31%	11	101%	・既存客からのリピート消耗品等も堅調 ・既存客へのフォロー営業強化により堅調

# 第37期 通期業績の概要(P/L) 前期比



(単位:百万円)

	今 期 計 画 (2008年3月期予想)		前 期 ( 参 考 ) (2007年3月期実績)		増 減	前年比	要 因
売 上 高	7,100	100%	7,001	100%	98	101%	・依然好調な次世代FPDや自動車部品の製造関連企業からの継続的な大型機械設備の受注による増加
売上総利益	1,437	20%	1,364	19%	72	106%	・原材料価格高騰を歩留り率向上や部品の海外調達等により粗利益率の低下を抑制 ・大型機械設備(商事部門)による利益率低下するも、売上高の伸長により増益
営業利益	405	6%	426	6%	▲21	95%	・技術開発センター設立による諸経費(減価償却費、不動産取得税等)及び研究開発費用の増加 ・内部統制構築に係る費用等の増加
経常利益	411	6%	424	6%	▲13	97%	・上記要因による費用の増加に伴い減益
当期純利益	234	3%	239	3%	▲5	97%	・同上
設備投資	176	—	51	—	124	339%	・技術開発センター設立、既存設備の更新&改修等に伴う大幅な増加
減価償却費	75	—	63	—	11	118%	・上記設備投資増に伴う増加
研究開発費	85	—	55	—	29	153%	・技術開発センター設立に伴う、各種研究開発の充実、FA装置に係る新技術の開発やアルファフレーム、クリーンブースの新製品開発等による増加

## IV. 今後の施策

---

---

# 当社ビジネスの優位性



## ■ シナジーを活かした総合力

### ■ アルファフレーム部門

ALFA FRAME® SYSTEM の  
シリーズ化

- ・高剛性フレーム
- ・アルファコンベア
- ・アルファレール

### ■ 装置部門

自動・省力化装置、周辺  
機器の研究開発

- ・国内初の半導体工場向け  
ミニエンバイロメント設備受注
- ・標準クリーンブース開発

### ■ 商事部門

輸入・国産工作  
機械取扱い

- ・大型自動車部品ラインの受注

#### ■ 装置製造から生まれた

ALFA FRAME® SYSTEM

#### ■ アルミの特性を活かした機械装置の開発製造

#### ■ 当社製品(ALFA FRAME® SYSTEM)を組み合

わせた洗浄・検査・搬送梱包の各種装置の販売

#### ■ 「メーカー機能」を活用した設備導入提案

1927

1971

1986

## 事業環境

- ◆ 国内外における自動車関連事業の高水準な設備投資
- ◆ FPD業界の技術革新と旺盛な設備投資などエレクトロニクス業界の活況
- ◆ 先端技術の微細化に伴うクリーン関連製品への注目度増大
- ◆ 鉄からアルミへの代替促進などアルミフレーム市場の拡大
- ◆ 人材不足による生産設備の自動化、省力化の更なる進行
- ◆ 企業活動の変革とスピートアップ



# 当社の競争力




## アルファ フレーム 部門

- アルミ構造部材の国内でのパイオニア的存在
- 設計ノウハウを活かした設計支援などの質の高いサービスの提供
- 新製品開発力
- システムとして完成された豊富なフレーム、アクセサリ類製品

## 装置 部門

- 幅広い業界で利用される要素技術の蓄積
- 特定の業界や取引先に過度に依存しない取引構造
- 当社技術力を評価するリーディングカンパニーを固定客に持つ

- 
- 各部門が相互にシナジー効果を活かしつつ、専門的なソリューションを提供する企業
  - 常に新しい独自の技術の開発を促す技術ベンチャーの気風

# 開発の基本方針



## 開発

技術開発センターを設立し開発力をさらに強化

### 3部門のシナジーを活かし、早期商品化を目指した製品開発

- 標準化・汎用化
- アルファフレーム製品、アクセサリ類の改良／開発
- 装置関連技術の開発



標準カップ式洗浄機



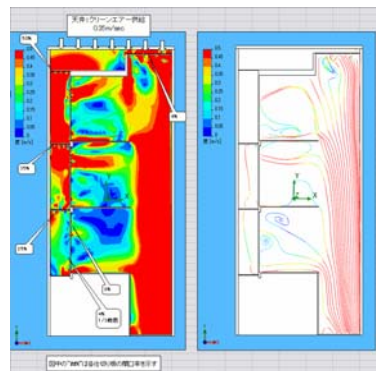
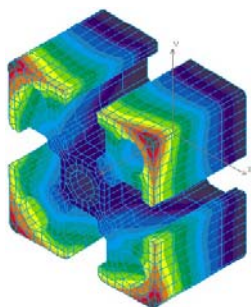
標準クリーンブース



### 安定的・持続的な収益力を高める研究開発

- 新素材等の基礎研究

マグネシウム合金  
樹脂フレーム 等



クリーンストッカーの  
気流解析

## 生産・技術

- 生産能力の増強 → 協力工場の確保
- 他社との提携による技術分野の拡大
- 標準化・汎用化製品ラインアップの充実
- 3部門のシナジー効果を活かした製品開発
- 人材の確保 → 技術力、技術者の確保

## 営業

- 質の高いサービスの提供(短納期、設計支援、ソリューションの提供)
- 販売チャネルの多様化
- 価格競争力の強化
- 専用フレーム開発 → 大口ユーザーの定着

## V. 会社概況

---

---

# 会社の概要

- 会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
- 設立年月日 昭和46年5月17日
- 代表社名 代表取締役社長 西川 浩司
- 本社所在地 富山県富山市清水元町7番8号
- 東京本社 東京都江東区有明三丁目1番25号  
有明フロンティアビルB棟 11階
- 資本金 156,100千円(平成19年3月末日現在)
- 従業員数 168名うち正社員140名(平成19年3月末日現在)
- 事業内容
  - ① アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売
  - ② アルファフレームシステムを使用したFA装置、  
クリーンブース、構造物の製造販売
  - ③ 富山県を地盤とした地域密着型工業生産財商社



# 沿革

・本年は創業80年の長い歴史を有する(時代と共に変革)



1920

1960

1970

1980

1990

2000

技術開発センター開設 **2007年6月** ●

JASDAQへ新規上場 **2006年6月** ●

ISO9001 (**2004年8月**) 及びISO14001の各認証を取得 **2006年3月** ●

当社を存続会社として(株)クレトを吸収合併 **2002年4月** ●

ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を解散し、同社のクリーン **2001年3月** ●  
関連事業を移管し、クリーンブースの製造・販売を開始

セイコー電子工業(株)、マイスナー・ヴウルスト社と共に **1997年12月** ●  
ニック・セイコー・マイスナーヴウルスト社を設立し、クリーン関連事業を開始

東京都千代田区平河町に東京支店(現・東京本社)を開設 **1993年2月** ●

● **1988年5月** アルミ構造材「ALFA FRAME® SYSTEM」を商品化し、  
アルファフレームの製造及び販売を開始

● **1986年4月** 産業用アルミフレーム「アルファフレーム」を開発

● **1971年5月** 富山県富山市にキュノ・トヤマセールスを設立し、搬送装置及び  
周辺装置の設計・製造を開始

● **1970年10月** クレト商会を(株)クレトに商号変更

● **1960年3月** 西川鑪製作所をクレト商会に商号変更

● **1927年4月** 鑪(やすり)の製造及び加工を事業目的として、富山県富山市に西川鑪製作所を設立



# 3つの事業部門



機械要素部品の生産から高度な装置製造・販売までの一貫体制

## 1. アルファフレーム部門



ボルトだけで構造体を組立てることができるフレキシブルなアルミ構造材  
「ALFA FRAME® SYSTEM」の製造販売

## 2. 装置部門

アルファフレームシステムを使用したFA装置、クリーンブース、構造物の製造販売



## 3. 商事部門

富山県を地盤とした  
地域密着型工業生産財商社



# アルファフレーム部門(1)



■ 強度解析とアルミ押出し技術が生み出す品質

■ 総合システムとしての高い完成度 (ALFA FRAME® SYSTEM)



230種類を超えるアルミフレーム製品



## 【アルファフレームの特徴】

1. 環境にやさしいリサイクル性
2. 軽く強く美しいフレーム
3. 急な設計変更や増設に対応
4. 豊富な製品ラインナップ
5. 幅広い分野に対応

知的財産権：（平成18年3月31日現在）

特許権 34件 意匠権 70件

## 【スチール製構造部材との比較】 ※当社調べ

- スチール製構造部材(6つの加工工程) …… 設計+切断+溶接+機械加工+塗装+組立
- ALFA FRAME® SYSTEM(3つの加工工程) …… 設計+切断+組立



# アルファフレーム部門(2)



## ■ 専門CAD設計陣による 設計支援サービスで広範な用途を提供

### エレクトロニクス

DVD・携帯電話  
PDP・TFT液晶ディスプレイ



### 自動車

PL対応のマシンツール用  
パーテーション



### 半導体

超微細化半導体用  
クリーンブース



### 製薬・食品 箱詰ライン



### 公共施設・病院 メディカルワゴン



### 専用フレーム

公園などに設置する街灯のボディー  
直交ロボットのマインフレーム  
エアシリンダーのボディー  
コンベアフレーム、コンプレッサー部品

# 装置部門(1)



- 洗浄装置(FA装置) 部品製造工程において、切削切粉等の削りかすを除去

## ■ 当社独自の洗浄方式

標準カップ式洗浄機

ボックス式洗浄機



NEW

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

自動車分野をはじめ電子、電子部品、家電メーカーなど幅広い業種に納入

# 装置部門(2)



## ● 検査装置(FA装置)

部品製造工程において、寸法、重量、形状、機能等を検査



## ● 搬送・梱包装置(FA装置)

部品製造工程において、材料の供給、機械間搬送、完成品をストック



## ● アルミ構造物

機械のカバー、機械の付属設備等



# 装置部門(3)



- クリーンブース 電子、精密部品の製造工程等で、局所をクリーン化

## カスタムクリーンブース



## 標準クリーンブース

- ・ホームページから簡単見積もり
- ・各種レイアウトあわせた350種以上のバリエーション

「ALFA FRAME® SYSTEM」を基本部材として使用することにより、製造の効率化や短納期化が可能

電子部品、家電メーカー、精密機械分野など幅広い業種に納入

## ● 工場等の機械設備

- 切削加工等の工作機械、自動化・省力化に必要な搬送の機械装置等
- 自動車部品メーカーへの売上比率が高い



## ● 消耗品



工業用砥石



工具・ツール



油脂類

富山県内の地域密着型商社として、リピート受注が多く、安定した消耗品ビジネス

- 本資料は、当社に関する情報の提供を目的とし、当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保証するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料中の業績予想並びに記載された内容は、本資料作成日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本資料に対するお問合せは、以下のIR担当窓口にてお願い申し上げます。  
＜エヌアイシ・オートテック株式会社 経営企画室＞  
TEL: 03-5530-8066      FAX: 03-3570-2381  
Mail: [ir@nic-inc.co.jp](mailto:ir@nic-inc.co.jp)      URL: <http://www.nic-inc.co.jp/>